バスケットボールプラザ

Basketball Plaza *No.98*



2023年7月

NPO法人 日本バスケットボール振興会

シニアバスケットボール交歓大会　in shirako

期日：2023 年4月22日(土)、23 日(日)
場所：千葉県長生郡白子町ホテルニューオーツカ専用アリーナ

＜参加チーム＞



STARS OF STARS



イーハトーブダバーズ



シニアギャロップス



横浜＆草加レジェンド



千葉・沖縄・広島・岡山連合



Gsブルーウインズ



山梨・九州



富士山静岡フリーダム

目　次

○　理事会と通常総会の開催　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・　２
「バスケットボールプラザ 100 号」へ続く変遷

○　令和５年度(２０２３年度）通常総会資料　・・・・・・・・・・・事務局・・・　３

○　FIBA女子アジアカップ2023 優勝は中国　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
「AKATSUKI JAPAN」女子日本代表は６連覇ならず

○　FIBAワールドカップ2023 グループ組合せ決まる　・・・・・・・・・・・・・１４
「AKATSUKI JAPAN」男子日本代表はグループＥでオーストラリアと

○　2022～2023 Ｂリーグ閉幕　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
琉球ゴールデンキングスが悲願の頂点へ

○　2022～2023 Ｗリーグ情報　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１

○　関東大学女子バスケットボール連盟情報　・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

○　【先人の軌跡】　三橋　誠　・・・・・・・・・・・・・・・・・歴史部・・・２８
―生涯を通じ、日本のバスケット界に尽力―

○　70 歳以上の交歓大会を開催　・・・・・・・・・・・・・・・・・普及部・・・３１

○　中学生初心者向けクリニック開催　・・・・・・・・・・・・・・普及部・・・３３

○　リングに向かって“跳べ”10 年後の子供達　・・・・・・・・・普及部・・・３４
第 75 回板橋区ミニバスケットボール大会

○　会員だより　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・須田　武志・・・３６
嘘のような、本当にあった話

○　会員だより　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・植野　紀子・・・３９
22-23NBA プレイオフでの八村塁選手の活躍

○　訃報・事務局だより　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・４０

○　プラザ こぼればなし　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１

理事会と通常総会の開催

［事務局］

理事会開催報告

令和４年度の事業活動について、会員・賛助会員の皆様のご理解とご協力のもと進めさせていただき、心から感謝申し上げます。過日（６/23）振興会事務所にて、理事会を開催して「令和５年度通常総会資料」（案）を審議し、ご承認いただきました。

令和４年度は、事業計画に基づき予定通り活動をすすめましたことを報告いたします。

令和５年度は、新たに「70 歳以上のシニア大会」を企画、また「事務所移転」を予定しています。



通常総会の開催　　―書面決議（同封ハガキの返信による）―

採決対象の「令和５年度通常総会資料」を今 98 号に掲載いたします。前年同様に書面決議となります。資料をご覧の上、議案の「賛否」について同封ハガキにてご返信いただくようお願い申し上げます。

「バスケットボールプラザ 100 号」（1978 年発刊から 124 号）へ続く変遷

「NPO 法人日本バスケットボール振興会」は、1978 年７月 1 日「日本実業団バスケットボール連盟協力会」の名称で発足し、当初は日本実業団バスケットボール連盟の行事・事業の助成を目的としていましたが、活動目的の改定に伴い、1993 年「NPO 法人日本バスケットボール振興会」に名称を変更しました。その間、機関誌名も「実業団バスケット」、「協力会ニュース」、「実連だより」、「バスケットボールだより」、「振興会ニュース」などの名称を経て、現在の「バスケットボールプラザ」へと続いています。

① 1978	「実業団バスケット」	(No.1・2)
② 1979.9～1980.9	「実業団バスケット協力会ニュース」	(No.1～3)
③ 1981.11～1991.10	「実連だより」	(第 1 号～17 号)
④ 1992.6	「最近の協力会の動きについて　会長の交代と協力会の新しい発展」	
⑤ 1993.1	「実連だより」	(第 18 号)
⑥ 1993.7	「日本バスケットボール振興会の発足　協力会から振興会へ」 活動の目的の改定に伴い日本バスケットボール振興会へ名称を変更	
⑦ 1994.4	「バスケットボールだより」	(第 19 号)
⑧ 1994～1999.9	「振興会ニュース」	(第 1 号～11 号)
⑨ 2000.5～現在	「バスケットボールプラザ」	(NO.12 ～NO.98・現在)

令和5年度(2023年度) 通常総会資料

１．令和４年度事業活動報告

１．日本バスケットボール協会への協力と提言
２．バスケットボール競技団体への協力・支援
３．日本のバスケットボールの歴史の調査研究と資料の収集
４．組織の充実と財政の確立
５．会員相互の交流を図る

<table>
<tr><th>各部</th><th>事業内容</th><th>具体的内容</th><th>実　　績</th></tr>
<tr><td>編集部</td><td>1.会報「バスケットボールプラザ」の発行</td><td>(1) 発行時期と主な掲載記事
<table>
<tr><th>No.</th><th>発行時期</th><th>主な掲載記事</th></tr>
<tr><td>94</td><td>令和４年
６月</td><td>理事会と定期総会開催（総会資料）、シニアチームの紹介、Ｂリーグ・Ｗリーグ結果報告、「先人の軌跡」「神田バスケットボール資料室」「高校籠球ふるさと記」（埼玉県編）など</td></tr>
<tr><td>95</td><td>令和４年
９月</td><td>「先人の軌跡」「神田バスケットボール資料室」「シニアチーム」の紹介、「高校籠球ふるさと記」（石川県編・三重県編）など</td></tr>
<tr><td>96</td><td>令和４年
12月</td><td>Ｂリーグ・Ｗリーグなど大会情報、「先人の軌跡」「シニアチームの紹介」「神田バスケットボール資料室」「高校籠球ふるさと記」（鹿児島県編）など</td></tr>
<tr><td>97</td><td>令和５年
３月</td><td>天皇杯・皇后杯・ウインターカップなど大会結果、「バスケットボールの日」「シニア交歓大会」「神田バスケットボール資料室」「高校籠球ふるさと記」（新潟県編）など</td></tr>
</table>
(2) 発行部数の拡大

(3) 広告掲載社の維持・拡大</td><td>「第13回シニア交歓大会開催報告」を掲載
「秋季講演会、交流会」は未実施のため掲載せず

継続努力

継続努力</td></tr>
</table>

令和5年度(2023年度) 通常総会資料

各部	事業内容	具体的内容	実　績
普及部	1.シニア大会の開催と拡大	(1) 第13回シニアバスケットボール交歓大会を令和４年10月27・28日に「代々木第二体育館」で開催、男子７チーム、女子２チーム参加、146名参加	計画通り実施
		(2) 全国で開催されているシニア大会の情報収集とプラザ等での紹介・京都向日市体育館・福島県「Ｊヴィレッジ・ならはスポーツアリーナ」訪問打合せ、「男子70歳以上の大会」を企画	体育館を訪問し大会開催を検討 千葉県長生郡白子町にて大会を企画
歴史部	1. 歴史的データの収集と整理	(1) 日本バスケットボールの歴史的資料のアウトプットにつき具体的方法を検討	継続努力
		(2) 神田バスケットボール資料室の資料の公開と閲覧の実施	計画通り実施
		(3) ＪＢＡ90周年の歴史のトピックスを整理	計画通り実施
事務局	1．振興会活動の運営の支援と効率化を計画	(1) 理事会・総会・講演会等の事務連絡及び振興会の活動の円滑化を企画	総会・講演会開催中止
		(2) 「神田バスケットボール資料室」を新設	計画通り実施
		(3) 会員数及び賛助会員の維持拡大	継続努力
		(4) 「プラザ購読会員」の新規会員獲得に努力	継続努力
		(5) 地方協会の「プラザ購読一部協力金」増加を計画（現在８府県）	継続努力
		(6) ホームページ・メルマガなどによる情報発信	一部実施

〈事務所移転について〉

現在、入居している事務所ビル老朽化のため、2023年12月末日までに退去の申し入れがあり。

〈令和5年2月 28 日付け賃貸人と合意の内容〉

「2023 年 11 月末日までに事務所を退去する。立退料として、移転費用を含め 200 万円を支払う。なお、令和5年3月～11 月まで、9 ヶ月間の賃借料を免除（但し、各月の光熱費、水道代は負担）する。」

これを受けて共同賃借人である PFJ と協議、事務所移転費用は全額 PFJ が支払い、当振興会は立退料のうち 40 万円を受領することで合意、今後新移転先等は打ち合わせの上対応。

令和４年度　会員動向

	令和３年度末（令4.3.31）	令和４年度末（令5.3.31）	増減	備　考
個人会員	１４１名	１４１名	０名	新規会員　７名 退 会 者　７名 （内逝去者１名 ２年以上会費未納２名）
賛助会員	５社	４社	▲１社	退会会員　１社

令和5年度(2023年度) 通常総会資料

2. 令和４年度特定非営利活動に係る事業会計収支決算書

令和4年4月1日～令和5年3月 31 日　　(単位:円)

科　目	4年度予算	4年度決算	増　減	備　考
Ⅰ 経常収支の部				
1. 経 常 収 入				
(1)会費収入				
正会員会費	1,265,000	1,130,000	▲ 135,000	
賛助会員会費	260,000	180,000	▲ 80,000	
個人購読会員	0	0	0	
会費収入計	1,525,000	1,310,000	▲ 215,000	
(2)事業収入			0	
広告掲載料	90,000	90,000	0	
月刊BB負担金	188,000	164,000	▲ 24,000	
各種販売益	0	8,000	8,000	
交流会･講演会	10,000	0	▲ 10,000	
シニア大会	430,000	360,000	▲ 70,000	
そ の 他	0	16,000	16,000	
事業収入計	718,000	638,000	▲ 80,000	
(3)寄 付 金	195,000	189,000	▲ 6,000	
(4)雑 収 入	30,000	430	▲ 29,570	
(5)受取利息	0	8	8	
経常収入計	2,468,000	2,137,438	▲ 330,562	
2. 経 常 支 出			0	
(1)事 業 費			0	
広報･啓発活動費	806,000	726,279	▲ 79,721	
普及支援活動費	450,000	530,600	80,600	
協力及び提言活動費	0	0	0	
調査･研究活動費	0	27,292	27,292	
その他活動費	50,000	60,000	10,000	
事業費計	1,306,000	1,344,171	38,171	
(2)管理費			0	
会議費	40,000	117	▲ 39,883	
通信費	100,000	78,356	▲ 21,644	
水道光熱費	60,000	57,347	▲ 2,653	
事務所借用費	660,000	607,189	▲ 52,811	
租税公課	0	0	0	
雑 費	0	11,983	11,983	
その他事務所運営費	250,000	226,776	▲ 23,224	
管理費計	1,110,000	981,768	▲ 128,232	
経常支出計	2,416,000	2,325,939	▲ 90,061	
3. 経常収支差額	52,000	▲ 188,501	▲ 240,501	
Ⅱ その他資金収支の部				
1. その他資金収入				
その他資金収入計	0	0	0	
2. その他資金支出			0	
その他資金支出計	0	0	0	
当期収支差額	52,000	▲ 188,501	▲ 240,501	
前期繰越収支差額	595,850	595,850	0	
次期繰越収支差額	647,850	407,349	▲ 240,501	

令和5年度(2023年度) 通常総会資料

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

2023 年３月 31 日現在

（単位：円）

科　目	金　額		
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	43,227		
ゆうちょ銀行	99,245		
三菱UFJ銀行	148,613		
みずほ銀行	59,820		
流動資産合計		**350,905**	
2. 固定資産			
三菱UFJ・定期預金	200,444		
固定資産合計		**200,444**	
資産合計			**551,349**
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計	144,000	**144,000**	
2. 固定負債			
固定負債合計		**0**	
負債合計			**144,000**
正味財産			**407,349**

3. 令和４年度監査報告

監 査 報 告 書

令和５年６月 23 日

特定非営利活動法人　日本バスケットボール振興会の令和４年度（令和４年４月１日から令和５年３月３１日まで）の業務監査及び会計監査を実施した。

監査の結果当法人の業務は法令及び定款に基づき適正に執行され、会計処理はＮＰＯ法人会計基準及び一般に公正妥当と認められる会計の方法によって適正に処理されているものと認められた。

上記期間に係る同法人の事業報告及び計算書類が、業務執行の状況及び令和５年３月３１日における財産の状況を適正に表示しているものと認める。

監　事　　西 川 和 人

吉 田 頼 且

4. 令和５年度事業活動計画（案）

１．(公財)日本バスケットボール協会への協力と提言
２．バスケットボール競技団体への協力・支援
３．日本のバスケットボールの歴史の調査研究と資料の収集
４．組織の充実と財政の確立
５．会員相互の交流を図る

<table>
<tr><th>各部</th><th>事業内容</th><th>具体的内容</th><th>備　考</th></tr>
<tr><td>編集部</td><td>1.会報「バスケットボールプラザ」の発行</td><td>(1) 発行時期と主な掲載記事（予定）
大会の日程の変更に伴い、発行日を考慮
機関誌の年４回の発行を３回に変更
<table>
<tr><th>No.</th><th>発行時期</th><th>主な掲載記事</th></tr>
<tr><td>98</td><td>令和５年
６月</td><td>理事会と定期総会開催（総合資料）、「シニア大会・白子」大会報告、Ｂリーグ・Wリーグ結果報告、「先人の軌跡」「神田バスケットボール資料室」の紹介、「高校籠球ふるさと記」（北海道編）など</td></tr>
<tr><td>99</td><td>令和５年
12月</td><td>「ワールドカップ2023」「皇后杯」「シニア大会・代々木」大会報告、「先人の軌跡」「神田バスケットボール資料室」「シニアチーム」の紹介、「高校籠球ふるさと記」（愛知県編）など</td></tr>
<tr><td>100</td><td>令和６年
３月</td><td>秋季講演会・交流会の開催、Ｂリーグ・Wリーグ・ウインターカップの大会情報、「先人の軌跡」「神田バスケットボール資料室」の紹介、「シニア大会・代々木」の報告、「高校籠球ふるさと記」（神奈川県編）など</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>過去に発行された「プラザ100号」の掲載記事を資料としてまとめ報告</td></tr>
</table>
(2) 発行部数の拡大

(3) 広告掲載社の維持・拡大</td><td></td></tr>
</table>

令和5年度(2023年度) 通常総会資料

各部	事業内容	具体的内容	実　績
普及部	1.シニア大会の開催と拡大 2.他団体への活動協力	(1) 第14回シニアバスケットボール交歓大会を令和５年11月15・16日に「代々木第二体育館」で開催、約200名の参加予定 (2) 全国で開催されているシニア大会の情報収集とプラザ等での紹介 70歳以上の男子チームを対象にシニアバスケットボール交歓大会in白子を令和５年４月22日・23日に開催で参加８チーム、女子シニアチーム大会の開催を検討 (3) 「バスケットボールの日」開催協力等	
歴史部	1. 歴史的データの収集と整理	(1) 日本バスケットボールの歴史的資料のアウトプットの具体的方法を検討 (2) 神田バスケットボール資料室の資料の公開と閲覧の実施 (3) ＪＢＡ100周年の歴史のトピックスを整理 (4) 保管資料の一部処分も検討	
事務局	1．振興会活動の運営の支援と効率化を計画	(1) 理事会、総会、講演会等の事務連絡及び振興会の活動の円滑化を企画 (2) 「神田バスケットボール資料室」活動 (3) 会員数及び賛助会員の維持拡大 (4) 「プラザ購読会員」の新規会員獲得に努力 (5) 地方協会の「プラザ購読一部協力金」増加を計画 (6) ホームページ・メルマガなどによる情報発信	

〈振興会の活動の見直し〉振興会の次期体制への引継ぎ

「収入」・・・会費･賛助金･寄付･広告･「都道府県協会プラザ発行協力金」事業収入(大会運営)

「支出」・・・事業の見直し(プラザ発行4回から3回に変更)

管理費(事務所借用費の軽減･負担料率の等分化を計る)会議室借用費の計上

〈事務所の移転〉・・・借用費の軽減を計る。

令和5年 11 月に向けて、事務所移転の作業を進める。12 月より新事務所で活動予定。決算資料など保管期間に基づき順次処分する。保管資料の整理と処分を進め、効率保管を目的にスリム化を進める。外部保管なども検討する。

（参考）神田バスケットボール資料室の概要

日本のバスケットボール界の資料を収集し「先人の軌跡」を次世代へつなげ、次の3つの区分として資料の充実と検索･整備を図る。

（1） バスケットボールの発行物

（2） 個人所有の収集物の保管

（3） バスケットボール関係の大会記念品、参加章等

令和5年度(2023年度) 通常総会資料

5. 令和５年度特定非営利活動に係る事業会計収支予算書（案）

令和5年4月1日～令和6年3月31日　　（単位:円）

科　目	4年度予算	4年度実績	5年度予算	対4年度予算比	対4年度実績比	備　考
Ⅰ　経常収支の部						
1.経 常 収 入						
(1)会費収入						
正会員会費	1,265,000	1,130,000	1,130,000	▲ 135,000	0	
賛助会員会費	260,000	180,000	166,000	▲ 94,000	▲ 14,000	
会費収入計	1,525,000	1,310,000	1,296,000	▲ 229,000	▲ 14,000	
(2)事業収入						
広告掲載料	90,000	90,000	90,000	0	0	
月刊BB負担金	188,000	164,000	168,000	▲ 20,000	4,000	
各種販売益	0	8,000	0	0	▲ 8,000	
交流会･講演会	10,000	0	10,000	0	10,000	
シニア大会	430,000	360,000	740,000	310,000	380,000	
そ の 他	0	16,000	0	0	▲ 16,000	
事業収入計	718,000	638,000	1,008,000	290,000	370,000	
(3)寄 付 金	195,000	189,000	184,000	▲ 11,000	▲ 5,000	
(4)雑 収 入	30,000	430	400,000	370,000	399,570	
(5)受取利息	0	8	0	0	▲ 8	
経常収入計	2,468,000	2,137,438	2,888,000	420,000	750,562	
2.経 常 支 出						
(1)事 業 費						
広報･啓発活動費	806,000	726,279	654,000	▲ 152,000	▲ 72,279	
普及支援活動費	450,000	530,600	820,000	370,000	289,400	
協力及び提言活動費	0	0	0	0	0	
調査･研究活動費	0	27,292	60,000	60,000	32,708	
その他活動費	50,000	60,000	50,000	0	▲ 10,000	
事業費計	1,306,000	1,344,171	1,584,000	278,000	239,829	
(2)管理費						
会議費	40,000	117	70,000	30,000	69,883	
通信費	100,000	78,356	100,000	0	21,644	
水道光熱費	60,000	57,347	60,000	0	2,653	
事務所借用費	660,000	607,189	275,000	▲ 385,000	▲ 332,189	
租税公課	0	0	0	0	0	
雑 費	0	11,983	0	0	▲ 11,983	
その他事務所運営費	250,000	226,776	250,000	0	23,224	
管理費計	1,110,000	981,768	755,000	▲ 355,000	▲ 226,768	
経常支出計	2,416,000	2,325,939	2,339,000	▲ 77,000	13,061	
3.経常収支差額	52,000	▲ 188,501	549,000	497,000	737,501	
Ⅱ　その他資金収支の部						
1.その他資金収入						
その他資金収入計	0	0	0	0	0	
2.その他資金支出						
その他資金支出計	0	0	0	0	0	
当期収支差額	52,000	▲ 188,501	549,000	497,000	737,501	
前期繰越収支差額	595,850	595,850	407,349	▲ 188,501	▲ 188,501	
次期繰越収支差額	647,850	407,349	956,349	308,499	549,000	

以上

FIBA 女子アジアカップ 2023 優勝は中国

「AKATSUKI JAPAN」女子日本代表は６連覇ならず

［編集部］

ＦＩＢA女子アジアカップ 2023 はアジアオセアニア地区の世界ランク上位８チームによる組合せが４月 24 日に発表され、大会はオーストラリア・シドニーにおいて６月 26 日から７月２日までに開催された。

以下に大会の結果と日本代表の戦績を報告する。

日本代表チームの主なスタッフと選手は日本協会から６月９日に発表され、６月 23 日に＃３馬瓜ステファニーの所属が変更されて、下記となった。

日本は、予選グループラウンドでグループＢを全３勝、１位で通過してベスト４に入り、2024 年パリ・オリンピックの最終予選（2024 年 2 月に開催予定）への出場権を獲得した。

本大会での決勝トーナメントでは、準決勝からの出場で決勝戦まで進んだが、中国に敗れ、６連覇はならなかった。

＜ 主なスタッフ ＞

役　職	氏　名	所　　属
ヘッドコーチ	恩塚　亨	公益財団法人日本バスケットボール協会
アシスタントコーチ	鈴木　良和	株式会社 ＥＲＵＴＬＵＣ
アシスタントコーチ	今野　駿	ＥＮＥＯＳサンフラワーズ

＜「AKATSUKI JAPAN」女子日本代表選手 ＞　　年齢・所属は2023年６月23日現在

NO	選手名	P	身長 cm	体重 kg	年齢 歳	所　　属
3	馬瓜　ステファニー	PF	182	78	24	Ｍｏｖｉｓｔａｒ　Ｅｓｔｕｄｉａｎｔｅｓ
8	髙田　真希	C	185	77	33	デンソー アイリス
12	朝比奈　あずさ	C	185	75	19	筑波大学2年
15	本橋　菜子	PG	164	55	29	東京羽田ヴィッキーズ
23	山本　麻衣	PG	163	58	23	トヨタ自動車 アンテロープス
27	林　咲希	SG	173	65	28	富士通レッドウェーブ
31	平下　愛佳	SG	177	67	21	トヨタ自動車 アンテロープス
32	宮崎　早織	PG	167	56	27	ＥＮＥＯＳサンフラワーズ
59	星　杏璃	SG	170	65	23	ＥＮＥＯＳサンフラワーズ
75	東藤　なな子	SF	175	65	22	トヨタ紡織 サンシャインラビッツ
88	赤穂　ひまわり	SF	184	71	24	デンソー アイリス
99	オコエ　桃仁花	PF	182	85	24	GEELONG UNITED SUPERCATS
	平　均		175.6	68.1	24.8	

PG ポイントガード、 SG シューティングガード、 SF スモールフォワード、 PF パワーフォワード、 C センター

予選グループラウンド　組合せと戦績（６月 26 日～28 日）

グループ Ａ

順位	チーム	勝	負	世界ランク 2位 中国	29位 ＊：ニュージ	12位 韓国	44位 レバノン
1	中国	3	0		○ 80－46	○ 87－81	○ 89－44
2	＊：ニュージ	2	1	● 46－80		○ 66－64	○ 76－45
3	韓国	1	2	● 81－87	● 64－66		○ 76－54
4	レバノン	0	3	● 44－89	● 45－76	● 54－76	

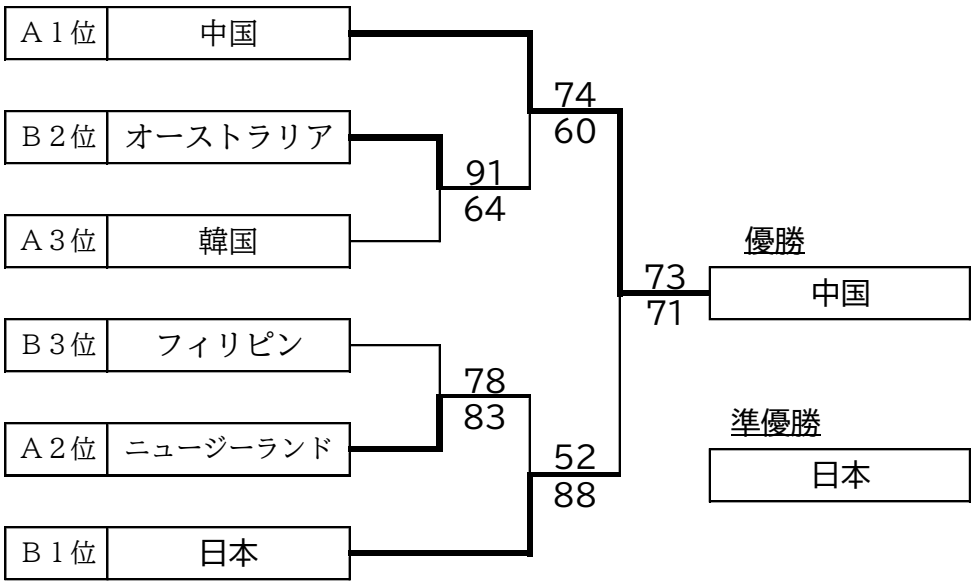
＊：ニュージーランド

グループ Ｂ

順位	チーム	勝	負	世界ランク 9位 日本	3位 オーストラリア	42位 フィリピン	33位 δ：タイペイ
1	日本	3	0		○ 91－66	○ 95－57	○ 94－53
2	オーストラリア	2	1	● 66－91		○ 105－34	○ 91－45
3	フィリピン	1	2	● 57－95	● 34－105		○ 92－81
4	δ：タイペイ	0	3	● 53－94	● 45－91	● 81－92	

δ：チャイニーズ・タイペイ

決勝トーナメント　　６月 30 日／７月１日・２日



６月 30 日　７・８位決定戦（Ａ・Ｂグループの最下位同士）

7位　　レバノン　　○ 75－73 ● チャイニーズ・タイペイ　8位

７月１日　５・６位決定戦（準々決勝戦の敗者同士）

5位　　韓国　　○ 80－71 ●　　フィリピン　　6位

７月２日　３・４位決定戦（準決勝戦の敗者同士）

3位　オーストラリア　○ 81－59 ● ニュージーランド　4位

【日本代表戦績】

グループラウンド　6月26日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	21	19	26	28	94
チャイニーズ・タイペイ	14	17	12	10	53

グループラウンド　6月27日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
フィリピン	14	17	17	9	57
日本	28	21	17	29	95

グループラウンド　6月28日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
オーストラリア	21	11	19	15	66
日本	15	29	26	21	91

予選ラウンドＢグループの日本（世界ランク９位）は、チャイニーズ・タイペイとフィリピンを圧倒して寄せ付けず、３日目に世界ランキング３位のオーストラリアと対戦。

出だしターンオーバーから相手に速攻を決められ、その後も連続３Ｐを決められて０－８となってしまう。なかなか調子が上がらなかった日本だが、５分過ぎから交替した＃59星のスティールから＃８高田が速攻を決めると、ここから反撃開始。交替した＃31平下の３Ｐや、＃99オコエの連続得点などで一時２点差まで追い上げる。

第２クォーター中盤、日本はポイントガード＃23山本の３Ｐをはじめとする積極的なオフェンスによって５分に33－32と逆転に成功。それからも＃99オコエや＃23山本の３Ｐなどでリードを拡げ、８点リードで前半を終えたが、日本はこのピリオドだけで６本の３Ｐを成功させ逆転リードの礎を築いた。

後半に入っても日本のハイペースは止まらず、交替した選手が次々と３Ｐを決め、守ってはしつこいディフェンスと＃８高田のシュートブロック等、相手に付け入るスキを与えず、格上のオーストラリアに25点差で勝利した。

出だし調子が出るのに少し時間がかかった日本だったが、交替した選手がはつらつとしたプレーで追いつくと、すべての選手が 120%の力を発揮。データ的にシュート確率で２Ｐ57%、３Ｐ52%、フリースロー100%と相手を圧倒、逆にターンオーバーでは11と相手の15を下回り、リバウンドでも日本33本対オーストラリア31と頑張った。

日本は、予選ラウンド３ゲームとも90点以上の得点を挙げ、素晴らしい成績で決勝ラウンドへの進出を果たした。

準決勝戦　　7月1日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	24	23	19	22	88
ニュージーランド	11	14	13	14	52

決勝戦　　7月2日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
中国	17	9	22	25	73
日本	17	18	16	20	71

世界ランク２位の中国との決勝戦に臨んだ日本は、開始早々相手を追う展開になったが、粘り強いディフェンスと＃27 林や＃８高田の３Ｐなどで追いつき、このクォーターは両者とも譲らぬ展開で同点に終わる。

第２クォーター開始早々、中国が３Ｐを含む連続得点で７点リードする。結果論になるがこのクォーターと第３クォーターの開始３分間の失点が最後まで響いたことになり、身長では下回るものの第１クォーターのようなディフェンスで相手得点を少しでも抑えていれば勝てたかもしれない。

リードを許した日本は中盤から＃88 赤穂、＃８高田、＃32 宮崎らが速いスライドインでシュートを決めて追いつき、残り２分半ほどの間、中国に得点を許さない厳しいディフェンスを敷き前半を終えて日本が 35－26 と９点をリードする。

第３クォーター、日本は、開始早々またもや中国に連続７得点をされて追いつかれ、その後は一進一退の攻防が続いたが、９分を切ってから＃59 星や＃23 山本のスライドインで得点し、51－48 と３点リードする。

勝負となった第４クォーターだったがこれまでのクォーターと同様に日本は、開始早々中国に連続得点され残り４分で逆転され、更に残り２分少々で６点のビハインドとなって、またまた追いかける展開となってしまう。しかしながらこれまでと同様、今度は主将の＃27 林が奮起しスライドインや３Ｐなどで残り２分を切ったところで追いつく。

残り１分中国は 205 ㎝のセンターを生かしたインサイドプレイで先んじると、ここからリードが中国に移る。日本も＃８高田のシュートや＃３馬瓜の３Ｐなどで食い下がるが、どうしてもリードを奪い返すことが出来ず、結局２点差で敗れた。

データで見ると僅差と身長差で及ばなかったことが見えてくる。シュート確率では２Ｐシュートで５％、３Ｐシュートで７％中国が上回り、リバウンドでは８本中国が上回っている。一方、ターンオーバーでは日本９に対して中国は 16 と多い。

【あとがき】

これで日本はアジア６連覇を逃し、大陸代表としてのオリンピック出場権は得られなかった。したがって 2024 年２月に開催される世界予選で６位までの成績を上げないとパリ・オリンピックに出場できない。

今回のアジアカップで日本は持ち前の３Ｐシュートと素早いドライブインを武器に高得点で突き進んできた。このことは大いに称賛されなければならないが、中国戦のように日本の得意とするオフェンスを抑え込まれ、思うように得点できないとなるとゲーム展開は苦しくなる。苦しいゲーム展開だとディフェンスに力を注がなければならなくなり、結果として疲労からシュート確率が悪くなるという悪循環に陥る。

今大会では予選から多くの選手が出場し、ディフェンスを頑張って好ましいゲーム展開を続けてきたが、決勝の中国戦ではそれがなかった。第２、第３、第４クォーターの始めに何か手を打つ方法はなかったのだろうか。

以上

FIBA ワールドカップ 2023 グループ組合せ決まる

「AKATSUKI JAPAN」男子日本代表はグループＥでオーストラリアと

［編集部］

ＦＩＢＡワールドカップ 2023 の組合せ抽選会が４月 29 日にあり、グループステージの組合せが下記のように決まった。

決勝トーナメントの開催はフィリピン・マニラで、試合会場、グループ構成、日程はあらかじめ決められており、今回の組合せ抽選会では去る２月に決定した出場 32 チームが、下記のように、４チームごと、Ａ～Ｈの８グループに割り当てられた。

表のチーム名右隣数値は 2023 年２月 27 日のＦＩＢＡ世界ランクである。

開催国　フィリピン						開催国　フィリピン					
開催場所　MANILA　ARANETA COLICEUM						開催場所　MANILA　MOA ARENA					
グループ Ａ			グループ Ｂ			グループ Ｃ			グループ Ｄ		
1	アンゴラ	41	1	南スーダン	62	1	アメリカ	2位	1	エジプト	55
2	ドミニカ共和国	23	2	セルビア	6位	2	ヨルダン	33	2	メキシコ	31
3	フィリピン	40	3	中国	27	3	ギリシャ	9位	3	モンテネグロ	18
4	イタリア	10	4	プエルトリコ	20	4	ニュージーランド	26	4	リトアニア	8位

開催国　日本						開催国　インドネシア					
開催場所　OKINAWA　OKINAWA ARENA						開催場所　JAKARTA　INDONESIA ARENA					
グループ Ｅ			グループ Ｆ			グループ Ｇ			グループ Ｈ		
1	ドイツ	11	1	スロベニア	7位	1	イラン	22	1	カナダ	15
2	フィンランド	24	2	カーボベルデ	64	2	スペイン	1位	2	ラトビア	29
3	オーストラリア	3位	3	ジョージア	32	3	コートジボワール	42	3	レバノン	43
4	日本	36	4	ベネズエラ	17	4	ブラジル	13	4	フランス	5位

試合は、１次・２次ラウンドのグループステージを経て決まるベスト８が、ファイナルフェーズの決勝トーナメントで戦い、８位までの順位を決める。

日本は、グループＥで２位以内に入り、グループＦの上位２チームとグループＫで戦って、更に２位以内に入らねば、ファイナルフェーズで戦うベスト８に進めない。

日本は、グループＥでオーストラリアかドイツの何れかを倒して２勝以上を確保したい。

日本の出場確定日程

８月 25 日(金) 21:10 開始　対 ドイツ
27 日(日) 21:10 開始　対 フィンランド
29 日(火) 20:10 開始　対 オーストラリア

日本男子代表の勝利目標

世界ランク 36 位の日本男子代表は、ランク３位のオーストラリア、11 位のドイツ、24 位のフィンランドとグループＥに入り、グループステージ１次ラウンドを戦う。

日本は、ここで上位２位以内となり、グループＦ（ランク７位のスロベニア、17 位のベネズエラ、32 位のジョージア、64 位のカーボベルデ）の対戦による上位２チームとグループＫに入り、２次ラウンドを戦うことが最低の勝利条件であろう。

まずは、ドイツ、オーストラリアに勝利してグループＫに進み、世界の８強を獲得してファイナルフェーズの決勝トーナメントに臨みたい。

FIBA ワールドカップ 2023 日程

グループステージ１次ラウンド　（８月25日から30日まで）

・上記グループＡ～Ｈそれぞれの４チームが、総当たりの３戦を行う。
・２次ラウンドへは、各グループ上位２チームが進む。

グループステージ２次ラウンド　（８月 31 日から９月３日まで）

・グループ「Ａ／Ｂ」がグループ「Ｉ」、「Ｃ／Ｄ」が「Ｊ」、「Ｅ／Ｆ」が「Ｋ」、「Ｇ／Ｈ」が「Ｌ」をそれぞれ編成して１次ラウンド上位２チーム同士が対戦する。
・グループＩ・Ｊ・Ｋ・Ｌそれぞれで、１次ラウンドの成績も含めた上位の２チームがベスト８となり、ファイナルフェーズに進む。

ファイナルフェーズ　（９月５日から 10 日まで）

①	グループＩ・１位	VS.	グループＪ・２位	（９月５日）
②	グループＫ・１位	VS.	グループＬ・２位	（９月５日）
③	グループＪ・１位	VS.	グループＩ・２位	（９月６日）
④	グループＬ・１位	VS.	グループＫ・２位	（９月６日）

⑤	準決勝戦	①の勝者	VS. ②の勝者	（９月８日）
⑥	〃	③の勝者	VS. ④の勝者	（９月８日）
⑦	３位決定戦	⑤の敗者	VS. ⑥の敗者	（９月10日）
⑧	決 勝 戦	⑤の勝者	VS. ⑥の勝者	（９月10日）

敗者トーナメントによる５位～８位の決定戦

⑨	５～８位順位決定戦	①の敗者	VS. ②の敗者	（９月８日）
⑩	〃	③の敗者	VS. ④の敗者	（９月８日）
⑪	７・８位決定戦	⑨の敗者	VS. ⑩の敗者	（９月10日）
⑫	５・６位決定戦	⑨の勝者	VS. ⑩の勝者	（９月10日）

以上

2022～2023 Ｂリーグ閉幕

琉球ゴールデンキングスが悲願の頂点へ

［編集部］

昨年秋に開幕されたＢリーグは、レギュラーシーズンを終え、各地区の上位２クラブに加え、ワイルドカード（全地区の上位２クラブを除いた勝率上位１位・２位）２クラブ、合計８クラブによるファイナルトーナメント戦により今シーズンの優勝クラブが決まった。

レギュラーシーズンリーグ戦においては、いずれの地区でも上位クラブと下位クラブの戦力差が目立った。すなわち東地区トップの千葉ジェッツの勝率88.3%はリーグ新記録で、60 試合で負け数が一桁という偉業に対し、中地区最下位の新潟アルビレックスＢＢは 13 勝、21.7%の勝率しか挙げられなかった。

中地区においては、横浜ビー・コルセアーズ、信州ブレイブウォリアーズ、サンロッカーズ渋谷、シーホース三河がファイナル進出へ向け競り合ったが、シーズン後半に横浜が一歩抜け出して２位となった。横浜は日本代表でもある河村の存在が大きい。

また、西地区においてはファイナル進出を目指して４クラブが最後まで競り合い、結果的に競り合った４クラブ全部がファイナルへ進出するという好結果をもたらした。

各地区の順位決定方法はまず勝率で、それが同率の場合は当該クラブ同士の得失点差によって上位下位が決まる。

レギュラーシーズンを終えて全地区で最下位勝率の新潟アルビレックスＢＢと滋賀レイクスが来シーズン２部へ降格する。

レギュラーシーズン東地区結果

順位	クラブ名	勝	負	勝率	得点	失点
1	千葉ジェッツ	53	7	.883	5275	4487
2	アルバルク東京	42	18	.700	4635	4262
3	宇都宮ブレックス	32	28	.533	4420	4324
4	秋田ノーザンハピネッツ	29	31	.483	4715	4664
5	群馬クレインサンダース	29	31	.483	4900	4992
6	茨城ロボッツ	23	37	.383	4822	4917
7	レバンガ北海道	19	41	.317	4845	5288
8	仙台８９ＥＲＳ	19	41	.317	4392	4672

とにかく１位の千葉がとび抜けている。負け数一桁で勝率 88%は他の追随を許さなかったが、その要因の一つが得点力だろう。総得点でＢ１リーグトップ、フィールドゴール成功率においても 46.2%と２位アルバルク東京の 44.3%を上回る。

３Ｐ成功率でも 35%と２位クラブの 32.4%を超え、逆にターンオーバーでは１試合平均で 10.3 本とリーグ中最も少なく、アルバルク東京の 10.8 本を下回る。

高得点、少ないミス、シュート成功率の高さが、新記録の勝率を物語っていて、シーズンを通して安定した戦いぶりであった。

レギュラーシーズン中地区結果

順位	クラブ名	勝	負	勝率	得点	失点
1	川崎ブレイブサンダース	40	20	.667	4952	4677
2	横浜ビー・コルセアーズ	33	27	.550	4934	4744
3	信州ブレイブウォリアーズ	29	30	.492	4430	4330
4	サンロッカーズ渋谷	28	32	.467	4962	5109
5	シーホース三河	27	33	.450	4652	4758
6	三遠ネオフェニックス	23	37	.383	4725	4914
7	富山グラウジーズ	15	45	.250	4730	5189
8	新潟アルビレックスＢＢ	13	47	.217	4514	5212

川崎ブレイブサンダース１位の要因は、センター＃22 ファジーカスの活躍とポイントガード＃０藤井の得点能力の高さだろう。＃22 ファジーカスの平均得点 20.8 はリーグ２位、＃０藤井のシュート成功率は３Ｐ38％を含んで 40.6％と相当高い。しかしながらシーズン中のターンオーバーが１試合平均 13 本と下位クラブ同様に多く、今一つ勝率が上がらなかった。

２位の横浜はポイントガード＃５河村の加入によって、これまでの強豪、サンロッカーズ渋谷とシーホース三河をしのいでクラブ最高の成績を上げてファイナルへ進み、クォーターファイナルで川崎と対戦して２連勝し、セミファイナルへ駒を進めた。

＃５河村は３Ｐ成功率 34.4％を含むフィールドゴール成功率 42.3％、平均アシスト数 8.5 本と大活躍し、クラブ初となるファイナル進出に貢献した。

レギュラーシーズン西地区結果

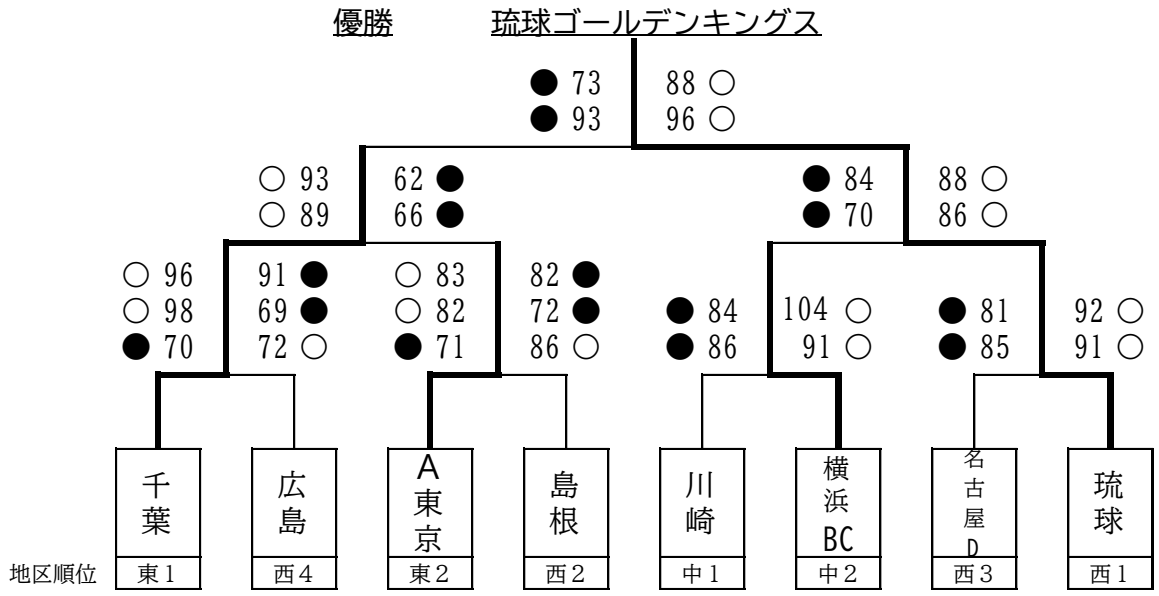
順位	クラブ名	勝	負	勝率	得点	失点
1	琉球ゴールデンキングス	48	12	.800	4870	4407
2	島根スサノオマジック	48	12	.800	5008	4526
3	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	43	17	.717	5041	4543
4	広島ドラゴンフライズ	41	18	.695	4959	4627
5	大阪エベッサ	27	33	.450	4649	4757
6	ファイティングイーグルス名古屋	22	38	.367	4411	4685
7	京都ハンナリーズ	22	38	.367	4627	4858
8	滋賀レイクス	14	46	.233	4563	5089

琉球ゴールデンキングスと島根スサノオマジックが最後まで競り合い勝率 80％で同率、当該クラブ同士の戦いも２勝２敗だったため、当該クラブ間の得失点差で順位が決まった。

琉球は＃５クーリーの１試合平均リバウンド 12.7 本はリーグトップ、一方島根は＃２ビュフォードが１試合平均 22.5 ポイントを挙げる得点でリーグトップの活躍を挙げ各々勝利に貢献した。

西地区は上位４クラブが、勝率 69％を上回って下位４クラブを引き離し、ワイルドカードを含めてファイナルへ進出する競り合いを最後まで続けた。

ファイナルズトーナメントの結果



クォーターファイナルでは、リーグ戦下位クラブが、第１戦で上位クラブを破って第３戦までもつれ込んだカードもあったが、上位クラブでは川崎を除いた３クラブがセミファイナルへ進んだ。

ダークホース的な横浜ＢＣは、川崎を連破しセミファイナルで琉球に挑んだが、琉球のパワーに圧倒されベスト４でシーズンを終えた。横浜ＢＣは初めてファイナルシリーズ進出を果たし、ベスト４まで駆け上ったが新加入の＃５河村の活躍が光ったシーズンとなった。

ファイナルズ第1戦

	Ｑ１	Ｑ２	Ｑ３	Ｑ４	OT1	OT2	計
千葉ジェッツ	15	21	18	23	5	11	93
琉球ゴールデンキングス	27	14	15	21	5	14	96

試合前日、千葉のポイントガード＃２富樫は「普通に戦えば勝てると思います」とマスコミに話したが、１万１千人以上の観客が入った横浜アリーナで始まったファイナル戦ではその予想が外れ、琉球に押される展開となった。琉球は千葉の３Ｐを封じる強烈で厳しいディフェンスを展開、千葉は＃２富樫や＃31 原が３Ｐどころかシュートさえ楽に打たせてもらえず第１クォーターで 12 点のリードを許す。

それでも千葉は第２クォーターから徐々に点差を詰めて第３クォーター早々に追いつく。その後は両クラブとも必死の戦いを繰り広げたが、どちらも決め手を欠いてお互いに大きなリードとはならず接戦が続く。第４クォーター残り 10 秒で 77－77 の同点とした千葉だったが最後の攻撃で得点できず延長戦へ。

延長戦では千葉のセンター＃21 エドワードと琉球のセンター＃45 クーリーが５ファウルで退場すると、お互いにインサイドを攻めきれず低得点に終わり第２延長へ入る。

第２延長に入ると琉球＃30 今村が奮起、開始早々に３Ｐを成功させ、その後もスライドインでファウルもらっての３点獲得プレーなど琉球のリードに大きく貢献する。対する千葉も＃33 ムーニーのインサイドプレイなどで得点するがどうしても追いつくことが出来ず、最後はファウルゲームも仕掛けたが空振りに終わり、50 分間の激闘は絶えず厳しいディフェンスを続けた琉球に軍配が上がり、悲願の初優勝に王手をかけた。データ的には両クラブほぼ互角だが、３Ｐで琉球が 10%千葉を上回り、リバウンドでも９本上回った。

ファイナルズ第2戦

	Ｑ１	Ｑ２	Ｑ３	Ｑ４	計
琉球ゴールデンキングス	24	16	17	31	88
千葉ジェェツ	14	17	23	19	73

前日第２延長戦までもつれ込んだ情報を得てか、会場の横浜アリーナは１万３千人を超える観客で埋まった。座席チケットが完売しても押し寄せるファンに対して、立ち見指定席まで設ける大盛況。Ｂリーグとしても初めての出来事となった。

アリーナは琉球を応援する白のユニフォームを着たファンと、千葉を応援する赤のユニフォームを纏ったファンで、センターラインを中心に真二つに分かれ、試合前から熱気むんむんの状態となった。

第１クォーター琉球の＃30 今村が３Ｐを入れると、直後に千葉の＃２富樫が３Ｐで返す好スタートだったが、中盤から千葉のシュートが入らなくなり、リバウンドを琉球に支配され千葉が 10 点のビハインドとなる。

第２クォーターに入っても、琉球の厳しいディフェンスの前に千葉はシュートミスが続き、点差を縮めるに至らず、残り３秒で琉球＃30 今村の３Ｐが決まって９点差で終わる。

前半の得点差は３Ｐの成功率に表れ、琉球の 53%に対して千葉は 18%にとどまった。

千葉は第３クォーターに入ると、厳しいディフェンスでなかなかシュートが打てない＃２富樫や＃31 原ではなく、センター＃21 エドワードを中心とした攻撃で点差を詰め、７分に 47－47 と追い付き更にフリースローを入れてはじめて１点リードする。

その後は両者一進一退で点差が離れることなく、琉球が 57－54 の３点リードで終わる。

勝負となった第４クォーター、琉球は、前日５ファウルとなった＃45 クーリーを休ませて＃７ダーラムを投入、ポイントガードも＃14 岸本に代わって＃４フリッピンを入れるとこれが成功する。

琉球は、＃１ダンカンが３Ｐを決め、＃４フリッピンもドライブインや３Ｐシュートなどで得点を叩き出しあっという間に 10 点リードする。対する千葉の得点源は＃２富樫だけで、他のプレイヤーが機能しなくなり、シュートミスのリバウンドを琉球に奪われ、点差を詰めるに至らなかった。千葉は９分過ぎからファウルゲームに出るが、琉球がフリースローを決めて作戦は失敗、最後はプレーをあきらめてしまった。

前日第２延長まで壮絶な戦いを繰り広げた両者だったが、全日本選手権を含めて何度も決勝で敗れてきた琉球選手の優勝に対する執念が勝ったと言える。

琉球はオンザコートの選手だけでなく、途中交代した選手の誰もが強烈なディフェンスとリバウンドを含むルーズボールに取り組んで戦い、強豪千葉を突き放した。

試合後のインタビューで琉球の桶谷ヘッドコーチは、交替した選手が素晴らしいプレーを次々と繰り出すため、元の選手をコートに戻すタイミングが図れないほど全員が頑張った。それゆえメンバーを入れ替えても戦力が全く落ちなかったことは御覧の通りと発言したが、全員バスケットが結実した勝利であった。

レギュラーシーズン表彰

最優秀選手	横浜ビー・コルセアーズ　＃５	河村　勇輝
ベスト５	千葉ジェェツ　＃２	富樫　勇樹
	千葉ジェェツ　＃31	原　　修太
	千葉ジェェツ　＃34	クリストファー・スミス
	横浜ビー・コルセアーズ　＃５	河村　勇輝
	島根スサノオマジック　＃２	ペリン・ビュフォード
最優秀新人賞	横浜ビー・コルセアーズ　＃５	河村　勇輝

横浜ビー・コルセアーズを初のチャンピオンシップ（ＣＳ）に導いたガード河村勇輝選手は最優秀選手（ＭＶＰ）、ベスト５、最優秀新人賞のすべての賞を獲得している。

また、最優秀ヘッドコーチに、琉球ゴールデンキングスを初のリーグ王者に導いた桶谷大ヘッドコーチが選ばれた

あとがき

今シーズンのＢリーグは新しい強豪クラブが増えて、リーグ戦でも質の高いゲームが多く見られ、それが観客動員数の増加にもつながっているようだ。ファンは正直で、面白い試合や質の高いプレーを期待し憧れるのであろう。その裏付けが横浜アリーナに 13,657 人のファンを呼び寄せ、立ち見でも試合を見たいというファン心理を呼び起こしたのだろう。

Ｂリーグの発表では、2022～23 年シーズンの総入場者数が過去最多の約 382 万人に達したとのことである。レギュラーシーズンで約 305 万人、ポストシーズンは１部が約 10 万５千人、２部が約６万７千人であった。来期の総集客数目標は 350 万人を掲げている。

以上

2022～2023 Wリーグ情報

［編集部］

2022～2023 シーズンのWリーグは、今シーズンより参加した姫路イーグレッツを含めた 14 チームで、レギュラーシーズンを各チームが 26 ゲーム行い、上位８チームがプレイオフに進む方式で行われた。順位は勝ち点で決定し、勝ちを２点、負けを１点とした。

第 24 回Wリーグ　レギュラーシーズンでの順位

順位	チーム	勝ち点	勝	負	不成立	勝率(参考)
1	デンソー	48	22	4	0	0.846
2	トヨタ自動車	48	22	4	0	0.846
3	三菱電機	46	20	6	0	0.769
4	ＥＮＥＯＳ	46	20	6	0	0.769
5	富士通	42	16	10	0	0.615
6	トヨタ紡織	42	16	10	0	0.615
7	シャンソン化粧品	41	15	11	0	0.577
8	日立ハイテク	40	14	12	0	0.538
9	アイシン	36	10	16	0	0.385
10	アランマーレ	34	8	18	0	0.308
11	東京羽田	33	7	19	0	0.269
12	山梨	31	5	21	0	0.192
13	姫路	30	4	22	0	0.154
14	新潟	29	3	23	0	0.115

２チーム以上が同じ勝ち点の場合は、以下の順序で順位を決定する。

●当該チーム間での対戦試合の勝ち点　●当該チーム間での対戦試合の総得失点差

●リーグ戦での全試合の総得失点差　●リーグ戦での全試合の総得点の大きいチーム

１位のデンソーは最終週のトヨタ自動車戦に２連勝して初のレギュラーシーズン頂点を勝ち取った。

第 24 回Wリーグのリーダーズ

得点　白崎　みなみ（姫路イーグレッツ＃６）初
【計 602 点：Avg　23.15】

アシスト　渡邉　亜弥（三菱電機コアラーズ＃45）初
【計 184 本：Avg　7.67】

リバウンド　イゾジェ　ウチェ（シャンソン化粧品シャンソンＶマジック＃４）初
【計 172 本：Avg　12.29】☆アーリーエントリー

スチール　　川井 麻衣（トヨタ自動車アンテロープス＃４）２年ぶり２回目
【計 64 本：Avg　2.46】
ブロックショット　　渡嘉敷　来夢（ENEOS サンフラワーズ＃10）２年ぶり 10 回目
【計 39 本：Avg　2.05】
フィールドゴール成功率　渡嘉敷　来夢（ENEOS サンフラワーズ＃10）９年連続 10 回目
【計 165/235 本：Avg　70.21】
３点シュート成功率　　酒井　彩等（アイシンウィングス＃55）初
【計 26/58 本：Avg　44.83】
フリースロー成功率　　赤穂　さくら（デンソーアイリス＃12）３年ぶり２回目
【計 39/43 本：Avg　90.70】

第 24 回Wリーグのアウォード

レギュラーシーズンＭＶＰ　　高田　真希（デンソーアイリス＃４）９年ぶり２回目

ルーキー オブ ザ イヤー　　白崎　みなみ（姫路イーグレッツ＃６）

コーチ オブ ザ イヤー　　ウラディミール　ヴクサノヴィッチ（デンソーアイリス）初

レフリー オブ ザ イヤー　　渡部　諭　２年連続２回目

ベスト５〈ガード〉　　町田　瑠唯（富士通レッドウェーブ＃10）２年連続６回目

ベスト５〈シューティングガード〉　渡邉　亜弥（三菱電機コアラーズ＃45）２年ぶり４回目

ベスト５〈スモールフォワード〉　赤穂 ひまわり（デンソーアイリス＃88）３年連続３回目

ベスト５〈パワーフォワード〉　渡嘉敷 来夢（ENEOS サンフラワーズ＃10）２年連続 11 回目

ベスト５〈センター〉　　高田　真希（デンソーアイリス＃８）７年連続 11 回目

ベスト６th マン　　渡部　友里奈（デンソーアイリス＃10）初

ベストディフェンダー　　川井　麻衣（トヨタ自動車＃４）初

第 24 回Wリーグ　プレイオフ

セミクオーターファイナル（新潟市東総合スポーツセンター）
第１試合　　富士通　○９１―８２●　日立ハイテク
シーソーゲームを演じ、第４クォーター終了で 77－77 の同点となるが、延長戦では日立が５－14 と抑えられて 敗退した。

富士通は２人のダブルダブル(＃８テミトペ 19 得点 14 リバウンド、＃25 内尾　10 得点 10 リバウンド）と＃10 町田のトリプルダブル（24 得点、10 リバンド、14 アシスト）を記録した。

第２試合　　トヨタ紡織　●６２―７０○　シャンソン化粧品

トヨタ紡織は第３クォーター終了で 53－43 とリードしていたが第４クォーターを９－27 とシャンソンの猛攻を受けて敗退した。

クオーターファイナル（新潟市東総合スポーツセンター）

第１試合　　ＥＮＥＯＳ　○７６―６９●　富士通

ＥＮＥＯＳは、第１クォーターで 23－14 と圧倒した後は一進一退で進み、結局７点のリードで勝利した。

第２試合　　三菱電機　●７６―７８○　シャンソン化粧品

三菱電機は、前半で 51－31 と大きくリードしたが、後半は失速し、第４クォーターを 11－28 と逆転されて競り負けた。

セミファイナル（武蔵野の森総合スポーツプラザ）

Ｇａｍｅ１（入場者数：3,838）

第１試合　トヨタ自動車　○７８―６４●　シャンソン化粧品

	Ｑ１	Ｑ２	Ｑ３	Ｑ４	計
トヨタ自動車	17	24	22	15	78
シャンソン	19	12	14	19	64

第２試合　　デンソー　●６７―７１○　ＥＮＥＯＳ

	Ｑ１	Ｑ２	Ｑ３	Ｑ４	計
デンソー	17	18	23	9	67
ＥＮＥＯＳ	23	20	19	9	71

Ｇａｍｅ２（入場者数：3,748）

第１試合　トヨタ自動車　○６６―５６●　シャンソン化粧品

	Ｑ１	Ｑ２	Ｑ３	Ｑ４	計
トヨタ自動車	22	16	10	18	66
シャンソン	12	19	16	9	56

第２試合　　デンソー　●５９―６１○　ＥＮＥＯＳ

	Ｑ１	Ｑ２	Ｑ３	Ｑ４	計
デンソー	20	10	17	12	59
ＥＮＥＯＳ	13	19	19	10	61

ファイナル（武蔵野の森総合スポーツプラザ）

Ｇａｍｅ１（入場者数：3,975）　ＥＮＥＯＳ　●４７―５５○　トヨタ自動車

	Ｑ１	Ｑ２	Ｑ３	Ｑ４	計
ＥＮＥＯＳ	11	6	18	12	47
トヨタ自動車	19	19	11	6	55

第１クォーター、ＥＮＥＯＳ はＦＧが 30%以下とシュートが決まらず 11―19 でトヨタ自動車にリードされる。第２クォーターもＥＮＥＯＳはシュートガ決まらず点差を広げられ 17―38 で前半を終了。第３クォーターに入るとＥＮＥＯＳはシュートガ決まりだしＦＧが 40%に上がり点差を縮めて 35―49 で終える。第４クォーターにＥＮＥＯＳはトヨタ自動車を６点に抑えるも逆転に至らず 47―55 のロースコアで終了。トヨタ自動車がリーグの３連覇に王手をかけた。

Ｇａｍｅ２（入場者数：5,266）　ＥＮＥＯＳ　○７４―６５●　トヨタ自動車

	Ｑ１	Ｑ２	Ｑ３	Ｑ４	計
ＥＮＥＯＳ	22	14	15	23	74
トヨタ自動車	20	17	14	14	65

第１クォーターのＦＧが両チーム共 50%超の展開となり２点差で終える。第２クォーターに入るとＥＮＥＯＳがＦＧ30%を切るのに対しトヨタ自動車は 40%を超え、36－37 の１点差で前半戦終了。第３クォーターは一進一退の展開となり 51―51 の同点で終了。第４クォーターに入るとＥＮＥＯＳ のＦＧが 50%を超え 74―65 で勝利して勝敗をＧａｍｅ３に持ち越した。

Ｇａｍｅ３（入場者数：3,329）　ＥＮＥＯＳ　○７２―６４●　トヨタ自動車

	Ｑ１	Ｑ２	Ｑ３	Ｑ４	ＯＴ１	ＯＴ２	計
ＥＮＥＯＳ	10	21	11	11	8	11	72
トヨタ自動車	10	18	14	11	8	3	64

第１クォーターは両チームシュートが決まらずロースコアの展開。第２クォーターは両チームともにシュートが決まり始めて（両チーム共ＦＧ50%超え）、得点が動き、ＥＮＥＯＳが 31―28 でリードし前半終了。後半、第３クォーターは両チームのガードが活躍し 42―42 で終了。第４クォーターはシーソーゲームとなり、リードされていたＥＮＥＯＳが残り１分で＃21 高田の３ポイントシュートにより 53―53 の同点とする。残り 15 秒のタイムアウト後、トヨタ自動車は＃23 山本のシュートに託すが外れタイムアップとなりオーバータイムに突入。

第１オーバータイムもシーソーゲームとなり残り 12 秒で、２点のビハインドを負うＥＮＥＯＳの＃32 宮崎がシュートを決めて 61―61 の同点とする。残り 12 秒のタイムアウト後のトヨタ自動車は＃３馬瓜のシュートに託すが外れタイムアップとなる。第２オーバータイムも交互に得点して 64―64 となり、残り１分 51 秒でＥＮＥＯＳ＃７林が３ポイントシュートを決めたが返しのトヨタ自動車＃18 宮下のシュートが外れリ、バウンドを取ったＥＮＥＯＳ＃32 宮崎が走り２ポイントシュートを決めフリースローも決めて３得点となり流れがいっきにＥＮＥＯＳとなる。その後、

トヨタ自動車は反撃するもシュートガ入らず逆にＥＮＥＯＳ＃21 高田に２ポイントシュートを決められ 72―64 で終わった。ＥＮＥＯＳは、激闘のファイナルを勝ち取って４年ぶり 17 回目の優勝となり、皇后杯と併せて二冠となった。

第 24 回Wリーグ プレイオフ アウォード

プレイオフＭＶＰ	渡嘉敷　来夢（ＥＮＥＯＳサンフラワーズ＃10）８年ぶり３回目
プレイオフベスト５	長岡　萌子（ＥＮＥＯＳサンフラワーズ＃３）
	渡嘉敷　来夢（ＥＮＥＯＳサンフラワーズ＃10）
	宮崎　早織（ＥＮＥＯＳサンフラワーズ＃32）
	馬瓜　ステファニー（トヨタ自動車アンテロープス＃３）
	山本　麻衣（トヨタ自動車アンテロープス＃23）

第 24 回Wリーグ最終順位

プレイオフの結果により今年度の最終順位は以下の通りとなった。

１位	ＥＮＥＯＳサンフラワーズ
２位	トヨタ自動車 アンテロープス
３位	デンソー アイリス
４位	シャンソン化粧品 シャンソンＶマジック
５位	三菱電機 コアラーズ
６位	富士通 レッドウェーブ
７位	トヨタ紡織 サンシャインラビッツ
８位	日立ハイテク クーガーズ
９位	アイシン ウィングス
10 位	プレステージ・インターナショナル アランマーレ
11 位	東京羽田ヴィッキーズ
12 位	山梨クィーンビーズ
13 位	姫路イーグレッツ
14 位	新潟アルビレックスＢＢラビッツ

あとがき

今シーズンのWリーグは、プレーオフ・ファイナルが Ｇａｍｅ３のＯＴ２までもつれ、最高の終わり方であった。しかし、ファイナルの観客数は１試合多いにも関わらず昨年より 436 人少ない 12,570 人であった。2023-24 シーズンのファイナルでは、2021 ファイナルＧａｍｅ２で記録した 7,152 人を超える初の 10,000 人を実現する企画を希望する。点取りゲームのだいご味が満喫できる多得点ゲームを、厳しいディフェンスで実現してほしい。このような、魅力あるゲームの提供を望む。

以上

関東大学女子バスケットボール連盟情報

［編集部］

第 57 回関東大学女子バスケットボール選手権大会は白鷗大学が優勝

2023 年４月 22 日（土）から５月７日（日）まで、第 57 回関東大学女子バスケットボール選手権大会が駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場他で開催された。競技は、まずシード校以外のチームを 16 グループに分けリーグ戦を行い、次いで各グループ 1 位の 16 チームとシード校 32 チームでトーナメント戦を行った。

結果、白鷗大学が 10 年ぶり２回目の優勝を飾った。以下に大会結果を掲載する。

第 57 回関東大学女子バスケットボール選手権大会結果

【成績】

優　勝	白鷗大学
準優勝	東京医療保健大学
第３位	筑波大学
第４位	山梨学院大学
第５位	日本体育大学
第６位	拓殖大学
第７位	立教大学
第８位	早稲田大学



撮影：池田　理

【個人賞】

最優秀選手賞	ｵｺﾝｸｳｫ ｽｰｻﾞﾝ ｱﾏｶ	白鷗大学、＃13、３年	
敢　闘　賞	岡本　美優	東京医療保健大学、＃77、４年	
新　人　賞	上野　心音	筑波大学、＃24、１年	
ベスト８賞	樋口　鈴乃	白鷗大学、＃74、４年	
	古木　梨子	東京医療保健大学、＃１、４年	
	朝比奈　あずさ	筑波大学、＃14、２年	
	藤澤　夢叶	山梨学院大学、＃５、２年	
	小野寺　佑奈	日本体育大学、＃３、４年	
	木村　真唯	拓殖大学、＃11、４年	
	西本　有沙	立教大学、＃10、４年	
	江村　優有	早稲田大学、＃23、３年	
得　点　王	江村　優有	早稲田大学、＃23、３年	121点
３ポイント王	江村　優有	早稲田大学、＃23、３年	15本
アシスト王	古木　梨子	東京医療保健大学、＃１、４年	32本

			OF	DF	TO
リバウンド王	ｵｺﾝｸｳｫ ｽｰｻﾞﾝ ｱﾏｶ	白鷗大学、＃13、３年	17	36	53

第 13 回関東大学女子バスケットボール新人戦は東京医療保健大学がリベンジ

2023 年５月 20 日（土）から６月 11 日（日）まで、第 13 回関東大学女子バスケットボール新人戦がウイングハット春日部他で開催された。東京医療保健大学が白鷗大学を破り昨年のリベンジを果たし２大会ぶり５回目の優勝を飾った。以下に大会結果を掲載する。

第 13 回関東大学女子バスケットボール新人戦結果

【成績】

優　勝	東京医療保健大学
準優勝	白鷗大学
第３位	筑波大学
第４位	山梨学院大学
第５位	立教大学
第６位	桐蔭横浜大学
第７位	松蔭大学
第８位	専修大学



撮影：池田　理

【個人賞】

最優秀選手賞	大脇　晴	東京医療保健大学、＃91、２年			
敢　闘　賞	玉川　なつ珠	白鷗大学、＃18、２年			
ベスト８賞	ｴｾﾞｷｴｯﾙ ﾙｰｽ ｷﾞﾌﾄ	東京医療保健大学、＃12、１年			
	ｱﾀﾞﾑ ｱﾌｫﾃﾞｨﾔ	白鷗大学、＃41、１年			
	古谷　早紀	筑波大学、＃14、２年			
	ｱｸﾞｸﾞｱ ﾁｶ ﾁｭｸｳ	山梨学院大学、＃８、２年			
	高村　美空	桐蔭横浜大学、＃６、１年			
	田平　真弥	立教大学、＃３、２年			
	林　　望愛	専修大学、＃57、２年			
	渡辺　花菜	松蔭大学、＃６、２年			
得　点　王	ｱﾀﾞﾑ ｱﾌｫﾃﾞｨﾔ	白鷗大学、＃41、１年	113点		
３ポイント王	川井田　風寧	筑波大学、＃11、１年	15本		
	石橋　花穂	松蔭大学、＃４、２年	15本		
アシスト王	池田　凛	白鷗大学、＃５、１年	20本		
	藤澤　夢叶	山梨学院大学、＃５、２年	20本		
			OF	DF	TO
リバウンド王	ｱｸﾞｸﾞｱ ﾁｶ ﾁｭｸｳ	山梨学院大学、＃８、２年	27	31	58

以上

【先人の軌跡】

三橋　誠（1907.1.16～1990.10.20）

―生涯を通じ、日本のバスケット界に尽力―

［歴史部］

〈略歴〉



出典：「三橋誠の想い出」

三橋家は、代々鳥取県の白兎（ハクト）で生活、父親の豊蔵は、小学校校長から県視学まで勤めた教育者。のちに帰農され、産業組合長や農業会長を歴任した。

1907 年（明 40）１月 16 日、砂丘の町、鳥取県気高郡末恒村（スエツネムラ）白兎に生まれ、子供の時から体格に恵まれ、進学した鳥取一中（現在の鳥取西高校）時代は、勉強より陸上で有名であった。

1925 年（大 14）マニラ（フィリッピン）で開催された第７回極東選手権大会に叔父三橋喜久雄の率いるチーム（コメットクラブ）のメンバーとして日本代表に登録されている。

1926 年（大 15）旧制成城高等学校（現在の成城大学）に入学、バレーボールとバスケットボールに熱中。1930 年（昭５）京都帝国大学農学部（以下京都大学）に進学、これがのちに日本の農業協同組合運動にかかわる原点となった。京都大学在学中は、バスケットボール部で活躍、関西大学バスケットボールリーグの創設に尽力し、市内女学校のコーチも引き受けた。

1933 年（昭８）３月京都大学卒業後、鳥取に帰り、徴兵検査をうけて甲種合格、満州國吉林省に派遣される。1934 年（昭９）幹部候補生に合格、陸軍主計少尉に任官後、除隊。1935 年（昭 10）京都大学バスケットボールコーチに専任の副手として採用された。

1936 年(昭 11)第 11 回ベルリンオリンピック日本代表チームのヘッドコーチに選ばれ、「オリンピックに参加し、世界のひのき舞台を踏んだ感激は一生の思い出」とのちのちまで語っている。1938 年（昭 13）には、1940 年（昭 15）に開催の予定であった東京オリンピックの準備のため厚生省体育官補に採用された。その後、招集され中国で４年を過ごし、1942 年（昭 17）除隊後、厚生省にもどり大東亜省（戦時中、委任統治領、占領地域の統治を業務とした省庁）で南方派遣要員の訓練を担当していたが終戦を迎える。

1945 年（昭 20）終戦後、郷里で農業に復帰、父親のあとをうけて農業会長に就任、同年農業協同組合が発足して組合長に選任された。1947 年（昭 22）県議選に立候補し初当選。1957 年（昭 32）に 50 歳の若さで全国購買農業協同組合連合会会長に就任。以後 16 年半にわたって名実ともに日本農協界のリーダーとして献身的な活動を続けた。

1947 年（昭 22）日本バスケットボール協会の理事に就任、1950 年（昭 25）鳥取県バスケットボール協会会長、1967 年（昭 42）日本バスケットボール協会理事長、1970 年（昭 45）同協会会長に就任、永く日本バスケット界の要職を務める。

1977 年（昭 52）勲二等瑞宝章受章、1990 年（平２）10 月 20 日逝去（84 歳）

１）旧制成城高校時代の三橋誠

旧制成城高校のバスケットボールは、三橋喜久雄（誠の叔父、鳥取師範からデンマークの体操学校を卒業、成城に三橋体育研究所を設立、日本の体育研究の第一人者)、義雄（喜久雄の弟)両先生の体育の授業時間にボールを籠に目がけて投げ込むのが始まりであった。

1926 年（大 15）に入学した三橋は、成城にバスケットボールという球技を根深く植え付けた人でいわば「成城籠球」の生みの親といってよく、卒業後も監督として後輩を指導、1931 年（昭６）と 1932 年（昭７）に成蹊、武蔵、甲南、大阪等の強豪高校を破りインターハイで２年連続優勝。1934 年（昭９）には、「全成城チーム」を組織し東京代表となり、1935 年（昭 10）全日本選手権大会に出場して早大を破り、決勝戦にのぞみ当時全盛の東大に惜敗した。1936 年(昭 11)年のベルリンオリンピックに日本チームのコーチとして出場、また三橋の指導を受けた成城高校出身の３名が日本代表選手に選ばれている。

２）京都大学時代（インカレの創設）・1936 年ベルリンオリンピックの参加

関西地方は、バスケットが古くから盛んな所で多くの関西大会が開かれていてゲームに次ぐゲームの連続であった。京阪神の協会もあり、それに大阪、神戸のＹＭＣＡがそれぞれ大会を持っていた。大会が多く練習も思うに任せないので、京都大学バスケットボール部としては、主目標を「関西インターカレッジ」と「東京大学との定期戦」に置いた。この年の秋、京都大学は目標の関西インカレに優勝した。

当時、学生の大会は各地にあったが、学生の日本一を決める大会は存在しなかった。関西インカレを制した京都大学は、関東インカレと学生日本一を競う機会を持ちたいと考え、三橋と三ッ本の二人は、1930 年（昭５）春、創設されたばかりの大日本バスケットボール協会へ頼みに行った。

協会も「新しい事業をやろう」としていた時であり、三橋は、叔父の喜久雄氏が日本スポーツ界の重鎮ということもあって協会の浅野氏、李氏に聞き届けてもらった。協会によって、この計画が進められ、当時のフォーブス・アメリカ大使から優勝盃の寄贈を受け「東西学生対抗戦」と銘打って、東西インカレの優勝チームによる学生日本一を争う大会が創設されることとなった。

この後、三橋は、1936 年（昭 11）ベルリンオリンピックに日本代表のコーチとして臨んだ。アメリカのルールでやっていた日本チームは、それと大いに異なったオリンピック・ルールに戸惑って持てる力を十分発揮できなかったようだが、この経験は日本のバスケット界に自信を与え、その後の充実･発展の基礎となった。これにより三橋の存在を明確に浮き彫りにした。



出典：第 11 回ベルリンオリンピック大会報告書

３）戦後、バスケット界とのかかわり（西日本協会から日本協会へ）

関西では、いち早く西日本バスケットボール協会を設立、初代伊藤忠兵衛氏、二代目松下幸之助氏を会長に東京に日本協会が再発足する以前から普及活動を開始し、三橋は山陰地方の代表として参画し大阪の理事会に出席していた。

東京では、富田理事長のもと日本協会の再建を柱としてバスケットボール界の復興に努力していた。三橋は、鳥取県農協会長、全購連会長として、東京で活動するようになると、

徐々に旧知のバスケットボール界に接し、1947 年（昭 22）日本協会の理事に就任する。
日本協会の活動は次の三ッ本理事長の体制の時代に全国の活動組織を都道府県単位とすることになり、その主旨をうけて関西の「西日本バスケットボール協会」は発展的に解散することとなった。
戦後、日本は、1956 年メルボルン（オーストラリア）、1960 年ローマ（イタリア）、1964 年東京と連続してオリンピックに参加していたが、1966 年（昭 41）に日本代表は 1968 年メキシコオリンピックの出場権を失った。そのため日本協会の役員が総辞職したこともあり、そのあとをうけ、三橋を中心に鹿子木、竹崎などベルリンオリンピック組がバスケット界の再興を計るため新理事会を発足させた。
1967 年（昭 42）には、日本協会の理事長に推され２期４年を務め、1970 年（昭 45）年日本協会の会長に就任する。その後、1972 年（昭 47）アジア連盟副会長に就任した。
三橋は、バスケットボールの国際の交流に労を惜しまなかった。特に、韓国とは、農協関係の仕事でも招聘されたこともあり両国の親善に尽力していた。
韓国女子バスケットボールは、アジア地区の予選を勝ち抜き、チェコスロバキア（当時）で開催される「1967 年世界女子バスケットボール選手権大会」の参加資格を得たが、当時は、朴正熙大統領の時期でチェコスロバキアと韓国の間に国交はなかった。
韓国協会会長であった張基榮会長は、自らもＦＩＢＡ（国際バスケットボール連盟）を訪問し、参加への協力要請をしていた。張会長は、三橋会長を訪問し面談、日本から世界選手権大会へ参加できるように「チェコ国際バスケットボール連盟」へ要請してほしい旨依頼。三橋はこれに尽力、その後、韓国チームはチェコの入国ビザを得られ、大会に参加しソビエトに次いで準優勝を獲得した。このことは、韓国国内で大きな話題となった。
三橋は、韓国と日本の友好関係に尽力したことで、外国人には稀な最高位の勲章である「韓国国民勲章牡丹章」を韓国政府から授与されている。
1972 年ミュンヘンオリンピック出場を目標に、日本協会は、男子代表チームの強化活動を開始し、1971 年（昭 46）東京（代々木第二体育館）でＡＢＣ大会（第６回バスケットボール男子アジア選手権）を開催、フィリッピン、韓国、台湾などに８戦全勝、優勝してオリンピック出場の目的を達成した。
三橋は、1981 年（昭 56）３月、「日本協会創立 50 周年記念行事」が開催されたその記念パーティの席上にて、引退を発表し辞任した。

４）最後に　～三橋誠とは～

生涯を通じて「バスケットボールマンそのもの」であり、常に頼られ期待された道を歩んだ人であり、それだけに常に重い責任を背負った陰の苦労は大変だったろうと推察される。周囲から「兄貴」「ドン」「オッちゃん」「オヤジ」と呼ばれ、その性格は「スケールが大きい」「笑顔・信念・誠実・偉大な人」「豪放磊落」と形容され、「おだやかな人柄」と「部下への信頼」をもった人生は、親しんだすべての人に愛された生涯であった。

以上

〈参考資料〉

●「三橋誠の想い出」（三橋明・1933 年７月８日発行）　●「京大籠球部 OB 会報第一号」（京大籠球部 OB 会・昭和 13 年３月）　●「第 11 回ベルリンオリンピック大会報告書」（大日本バスケットボール協会・昭和 13 年４月１日発行）　●「日本協会 50 年史・バスケットボールの歩み」（1981.３）　●三橋誠「オリンピック」（第 14 巻第５号大日本体育協会）など

７０歳以上の交歓大会を開催

［普及部］

70 歳以上の交歓大会は、４月 22 日・23 日、1 泊２日の日程で、バスケットボールコート２面がフルに使える千葉県長生郡白子町のホテルが所有する体育館で開催された。

振興会では、かねてより会員から要望があった 70 歳以上の方々を対象とした交歓大会を企画していたが、このほど千葉県九十九里浜海岸に近接する白子町に適当な施設を確保し、「シニアバスケットボール交歓大会」として開催するに至った。

大会が 70 歳以上対象ということもあり、単独チームでは参加困難な事情も考慮して合同合併チームでも参加可能としたところ、全国から８チーム 86 名のオールド選手が出場、女子選手も混合しての大会となった。

ゲームは各チームとも１日目に１試合、２日目に１試合の合計２ゲームを行い、第２クォーターをエンジョイタイムとする方式であり、エンジョイタイムを含めて、参加した全員がゲームに出場した。

70 歳以上とあってもゲームになると、かつての名プレーが続出したり珍プレーが出たりと、コート上どのゲームでもバスケットボールを楽しむ姿が多く見られた。それでも得点が競り合うといずれのチームも勝気まんまんとなってプレーに熱がこもるが、足が思うように動かず転倒する選手も続出、楽しさと厳しさが入り混じった試合運びとなった。

参加者のほぼ全員がホテルに宿泊したこともあり、１日目の夕食は懇親会を兼ね、一同そろった会場で大会役員を含めた 100 名規模の大宴会となり、各々楽しく交流を深めた。

＜大会参加チーム紹介＞

チーム名	チーム拠点	選手数（内女性）	平均年齢
STARS of STARS	東京都千代田区	12（2）	73.2
イーハトーブダバーズ	岩手県　東京都	11（0）	73.9
シニアギャロップス	大阪府	10（1）	71.2
横浜＆草加レジェンド	横浜・草加	9（0）	72.2
千葉・沖縄・広島・岡山連合	大阪府	9（0）	72.4
Gs ブルーウインズ	埼玉県	9（0）	75.3
山梨・九州	山梨県	15（3）	71.6
富士山静岡フリーダム	愛知県　静岡県	11（1）	71.9

＜試合形式＞

各試合とも８分クォーターで、クォータータイムは１分、ハーフタイム５分とする。

各試合とも第２クォーターをエンジョイタイムとする。

＜エンジョイタイム＞

超高齢者主体で、男性ゲームに登録女性が参加できる。

得点は、０対０でスタート、勝ったチームにそれまでの得点に１点を加える。

＜審判＞

各ゲームとも帯同審判が担当、不足する場合は協力会社のアクティブフープが担当する。

≪大会開催について≫

振興会では高齢者であってもバスケットボールを続けておられる方々に、試合形式によってバスケットボールを楽しんで頂くべく今回の大会を企画した。今回は他の大会との関係で女性の参加チームがなかったが、事情が許せば女性チームの参加も可能としている。

今回はテスト的な面もあったが参加者の圧倒的な賛成意見から、来年度も開催することを企画している。70 歳以上という年齢を考慮して 1 日 1 ゲームとし、全チーム２日間の日程がベターとなるだろう。宿泊と体育館の事情を考慮すると、開催場所が地方になることはやむを得えないだろう。

≪大会を振り返って≫　　大会事務局（渡辺記）

70 歳以上シニアの選手が楽しむことができる場を提供できればと考えました。今後、千葉県白子町が「温泉と海とテニスの町」でなく「温泉と海とバスケットボールの町」になるかもしれません。全国から多くの選手が集まり、何にもまして、事故もなく交歓大会が終了し、楽しんでいただいたことに心から感謝申し上げます。運営全般について、今後も大会参加の皆さんのご意見をお聞きし改善するように対応する所存です。

・大会要項などの検討

70 歳以上の交歓大会を開催するにあたり、いくつか試合形式を調整、合同チームの参加も可能とし 1 チーム 10 名以上の登録もお願いしました。大会要項の内容、試合時間の決定など、チームへの情報伝達などが遅れ、参加チームの皆さんにご心配をかけしました。

・大会運営について

２面の公認コートを確保できる体育館はホテルと隣接、コートの間隔も十分の広さがあることなどが利点。最寄り駅との送迎バス、ホテル別館（一部は少し離れた別館に宿泊）と体育館との往復バス、宿泊希望調整など、大会運営について全面的にホテル側の協力を得ることができました。

・試合の進行について

遠方から参加するチームの試合カード・時間を配慮しました。試合は、帯同審判制とし、審判不足の試合を主催者側で担当。審判、試合など、大会全般の運営は「アクティブフープ」の皆さんの協力で問題なく進行することができました。

次回の案内　（令和６年度計画）

2024 シニアバスケットボール交歓大会 in 白子の開催予定
2024 年４月 20 日（土）～４月 21 日（日）　２日間
@ニューオオツカアリーナ

以上

中学生初心者向けクリニック開催

［普及部］

６月４日（日)、京都市で、振興会協力による中学生初心者向けクリニックを４年ぶりに開催した。参加者は３校から男子 40 名、顧問の先生も４人参加頂き、当会理事の結城講師の指導の下、約２時間半「シュートを上手くなろう」とのテーマで実施した。バスケットの基本となる８方向の動き、その基になるバスケットボールスタンスの重要性、目線の位置、ドリブルの最終の形がシュート等々、これまで何度も紹介の「結城理論」に則った内容。40 名のうちミニ経験者数名を除き初心者、結城講師からは最初から上手くできるわけではないので繰り返し練習すること、その時、バスケットボールスタンスや目線の位置を常に意識することの大切さを強調。最後に、参加した生徒たちに恒例の「バスケでよく使う英語―覚えておけばきっと役立つ」を配布し、クリニックを終了した。

＜結びに＞

京都市での開催は、元京都府バスケット協会副会長、当会会員であった（故）藤野英雄氏と龍谷平安中学校の岩崎広行先生のご尽力で 2014 年に第一回目を実施、今回は４年ぶり、７回目。これ迄、延べ 39 校、315 人の生徒が参加。京都府バスケットボール協会は、来年 2024 年に 100 周年を迎える伝統ある協会。今回は、特別に同協会名誉会長、元日本協会副会長の兒玉幸長氏と同協会事務局長の西井功氏に臨席頂き、生徒たちへの激励のメッセージを頂いた。岩崎先生並びに両氏には紙面を借りて謝意を表したい。

＜クリニックこぼればなし＞

結城講師は、２年前のオリンピック東京大会以前に日本が最後に出場したモントリオール大会の日本代表選手で現在 72 歳。生徒たちにとっては祖父母と同世代の人、最初は縁遠く感じている様子もあったが、実技練習の中で「パンの頭」からのショットがことごとくリングに吸い込まれるのを間近で見て、びっくりしたらしく、練習が終わっても、名残惜しそうに結城講師を取り囲んでいる姿が印象的であった。

（文責　蒲田 尚史）

結城昭二講師プロフィール

1950（昭和 25）年８月 27 日、東京都足立区生まれ。足立区立第 11 中学２年から競技生活に入り、京北高校、中央大学を経て住友金属工業に入社。レフトハンドから繰り出す華麗なシュートは高校時代から脚光を浴び、モントリオールオリンピック、モスクワユニバーシアードをはじめアジア選手権、アジア大会など数多くの国際舞台でも活躍した。

リングに向かって“跳べ”10年後の子供達

第 75 回板橋区ミニバスケットボール大会

［普及部］

96号で紹介された板橋区ミニバスチーム「徳丸モンキーズ」のチーム代表杉田拓馬さんから主題の報告を頂きました。

“板橋区ミニバス　徳丸モンキーズ”代表　杉田　拓馬

本年は、２年越しの板橋区民大会で、ミニバスの部が開催されました。今年で 75th 大会となり、熱い大会をレポートいたします

コロナウイルス感染症の影響で、昨年度、一昨年度と中止となっていた区民体育大会を三年ぶりに開催することができました。

男子９チーム、女子９チームと参加チーム数が以前より減少してしまった大会ですが、予選からリーグ戦による順位決定を行うなど、参加チームにできるだけ多くの試合機会を提供する大会運営に努め実施することができました。大会成績は下記のとおりです。

〔男子の部〕

優　勝　　徳丸モンキーズ
準優勝　　志五小じょーだんズ
第三位　　フルーツバスケットボールクラブ　HASUNI

〔男子の部　優勝チーム“徳丸モンキーズ”からのコメントと集合写真〕

今シーズンは１年生から６年生まで13名の選手でスタートしたモンキーズです。シーズン当初の試合では３年生がコートに立って戦う状況でしたが、シーズンを通した練習や試合の成果で５・６年生が力をつけて区民体育大会最終日を迎えることができました。



準決勝、決勝戦ともにワンゴール差の厳しい試合展開でしたが、決してあきらめることなく相手選手より足を動かし強気で戦い続けることができました。

今シーズンの目標でもあった「板橋区で一番強いチームになる」を選手全員で実現できた素晴らしい試合でした。

対戦いただいた全てのチーム関係者の皆様、大会運営をしてくださった皆様へ感謝申し上げます。

〔女子の部〕

優　勝　　Ｂ☆Ｂキッズ
準優勝　　フルーツバスケットボールクラブ　ＨＡＳＵＮＩ
第三位　　志五小じょーだんズ

〔女子の部　優勝チーム　“Ｂ☆Ｂキッズ”からのコメントと集合写真〕



Ｂ☆Ｂキッズは創設から23年、現在１年生から６年生まで男女合わせて77名で活動しているチームです。その中で対外試合に出る高学年女子は17名でこの１年戦ってきました。今年度のＢ☆Ｂキッズのチームの特徴は「何か飛び抜けて凄い子がいない」チームでした。チームで大事にしている事の一つに「全員バスケ」があります。一人の力で抜けなければ仲間の力を借りて抜く、一人で守れなければ仲間の力を借りて守る。この全員バスケ、まさにチームプレーで戦い抜いてきた結果、今回の区民大会で優勝が出来ました。

特に決勝戦では背の高いチーム相手に全員で頑張って、前からディフェンスする事で勝てた試合でした。３年ぶりの区民大会で優勝できた事は卒団する６年生にとっても、チーム全員にとっても有意義なものとなりました。大会運営をしてくださった関係者の皆様、対戦チームの皆様、応援してくれた保護者の皆様に感謝申し上げます。

以上

会員だより



嘘のような、本当にあった話

元高校教諭　　須田　武志

本寄稿は、滋賀県立膳所高等学校の男女バスケットボール班を長年指導された須田武志先生の、前第 97 号の続きです。（編集部注）

その２．秋季高体連で男女同時優勝

全校生徒の男女の割合が、７対３で、圧倒的に男子の方が多い。バスケットボール部の部員数においても男子はまずまずの部員数であるが、女子は＜その１＞でも述べたように、毎年、ほぼ５人ぎりぎりの部員数であった。若さもあって、私は何も考えず、何も恐れず、一人で男女のチームを指導していた。

1969（昭和 44）年 11 月に実施された秋季高体連（新人戦）。何故か女子が県で優勝してしまった。女子が先に決勝戦があり、そのあとに男子の決勝が行われた。優勝の出来るはずのない女子が先に優勝してしまったので、男子には、そのあとに実施される決勝戦には少なからず、プレッシャーがかかった。しかし、男子も決勝戦で勝つことが出来たので、目出度く、初めての＜男女同時優勝＞となった。一人の指導者が県立高校で、男女を同時に優勝させるということは、至難の業である。これは、レベルの低い滋賀だからこそ、出来る離れワザかもしれない。

インカレにおいても男女のチームが同時に優勝する年もあるが、それらは男子･女子別々の指導者が指導していることが多い。私のように、一人で男女を指導して、男女同時に優勝するということは稀有なことだと思う。

レベルの低い地方の高校とレベルの高い大学とを比べたら質が全然違うけれども、私としては自分なりによくやったなあと感慨ひとしおであった。自分で自分を褒めたくなった。

秋季高体連（新人戦）で男女同時優勝　1969（昭和 44）年 11 月８日

男　子	決　勝	膳　所	７２（	３７－３０ ３５－２０	）５０	八幡工
女　子	決　勝	膳　所	７８（	３４－３１ ４４－２５	）５６	日　野

会員だより

その３．近畿総合選手権大会男女出場

11 月の秋季高体連で男女が同時に優勝したので、12 月に大阪府立体育館で開催される近畿総合選手権大会に男女揃って出場する栄誉をものにした。この大会には県内から男女各２チームが出場出来る。もう一つの男子のチームは滋賀教員である。滋賀教員は私が主将をしているので、私の関係する３チームが近畿総合選手権大会に出場するという、これも前代未聞の出来事が起きてしまった。

この大会には、男女とも各府県の生え抜きの実業団、大学、高校のチームが出場する。各府県の予選に勝った高校生は３年生も出場するし、大学生は４年生も出場する。その中で、我がチームは男女とも１・２年生だけの新チームの参加であった。このチームの試合時間が、たまたま重ならなかったことだけが救いであった。

男女が揃って、近畿総合選手権大会に出場することが決まったのは、よかったのだが、この大会の日程と２学期の期末考査とが重なってしまった。さあ、大変なことになってしまった。折角、予選に勝って出場権を得た大会なのだから、棄権するというわけにもいかない。なんとか無理をいって２学期の期末考査をしぶしぶ公欠扱いにしてもらって、この大会に出場することが出来たが、学校にとってもチームにとっても、これは前代未聞のことであった。（注、この時代の土曜日は、午前中、授業が行われていた）

近畿総合の結果

女　子　　1 回戦　　膳　所　３１（　１６－２２　１５－３５　）５７　樟蔭東

女子の 1 回戦の相手は、まさかのインターハイの優勝経験のある、原田茂氏率いる樟蔭東高校であった。大敗とまでとは、いかなかったが、思っていたよりは中味のある内容の試合であった。

男　子　　1 回戦　　×膳　　所　――――　〇神戸大学　（得点不明）
男　子　　1 回戦　　×滋賀教員　――――　〇日立大阪　（得点不明）

３チームとも 1 回戦敗退となった。誠に恥ずかしい試合結果であった。「二兎を追うもの一兎をも得ず」どころか、「三兎を追うもの一兎をも得ず」となってしまった。この学校が、このチームが男女揃って近畿総合選手権大会という大きな大会に出場するということは、普通では、考え難いことである。

会員だより

＜私の女子チームの強化法＞

何回も述べるように、私の指導している高校の女子の部員が毎年少ない。そのため、とてもじゃないが５対５の練習など出来っこない。

たまたま、近くの中学に勤めている男子の顧問の先生と親しくしている関係もあって、毎年、秋になるとその中学の男子のチームと私の指導している高校女子とで、練習試合を繰り返し、行ってきた。秋のこの時期だと不思議と高校の女子の方が勝つ。それが正月明けになると試合の結果は、ほぼ五分五分となる。更に春先になると中学の男子チームの方が圧倒的に強くなる。これはほぼ毎年のことである。この時期になると中学の男子は、ひ弱な体から、体も大きくなり、体力も付き、また、技術的にも一段と向上する。弱い女子チームを相手に、毎年、試合の相手になってくれる中学校の先生や生徒に感謝の気持ちでいっぱいである。



その１．で書き忘れたこと。

女子の部員が５人しかいないと試合をするときにいろいろと支障が生じてくる。試合が終わったあとに、いろいろと難儀なことが起きて来る。地区の公式戦では、負けたチームがオフィシャルをすることが慣例である。これは１日１試合の場合はよいのであるが、ＢＥＳＴ４に残って決勝リーグに出たときなどは大変である。大抵は、１日２試合のダブルヘッダーである。負けるとオフィシャルをやらないといけない。これは簡単なことのようで困難が付き纏う。数少ない部員全員がオフィシャルテーブルに付くので、次の試合に備えての昼食が摂れない。昼食抜きで次の試合に出ることになってしまう。まだ、もう１試合、試合が残っている。彼女たちが弁当を食べる時間的な余裕がない。そこで、私が得点板のところに座り、得点めくりと残分めくりを手伝う。部員は交互に昼食を摂る。誠に悲壮な光景である。

＜次号に続く＞

会員だより

22-23 ＮＢＡプレイオフでの八村塁選手の活躍



植野　紀子

ＮＢＡのプレイオフは長い。全 30 チームのうち東西各８チーム、半分以上の 16 チームが参加する。４戦先勝したチームが勝ち上がり、東西の各チャンピオンが決まり、最後にファイナルでナンバーワンを決める。優勝するまでに４回戦を戦うというわけだ。

日本人が初めてプレイオフに出たのが 2021 年、ワシントンウィザースの選手として八村塁が出場したが、1 回戦で敗退。その次は 2022 年渡邊雄太がトロントラプターズで出場し、こちらも 1 回戦敗退。

今シーズンは２人とも新しいチームでプレイオフに進んだ。当然ながら複数の日本人選手がプレイオフに進んだのが史上初ということになる。渡邊選手の所属するブルックリンネッツはシーズン途中にメンバーが大幅に変わり、プレイオフ進出が精一杯で１回戦敗退。八村選手は２月に名門ロサンゼルスレイカースに移籍し、チームは西の７位と下位からの進出ではあったが、２位との１回戦、６位との２回戦を撃破して西の決勝戦まで勝ち進んだ。その過程で八村選手は大活躍を見せた。

１回戦の初戦ではベンチからのスタートで 29 点をあげ、レイカースのレジェンド、マジック・ジョンソンと並び称された。次の試合も 20 得点と大きなインパクトを与えた。３回戦でナゲッツに４敗してシーズンを終えるまでの 16 試合に全て出場し、全ての試合で得点をあげた。３ポイントシュートも好調だった。ディフェンス面でもナゲッツ戦ではエース、ヨキッチを任され守り切る場面も多かった。試合を観たり、インタビュー記事を読んだりすることだけからだが、八村選手が集中して試合に臨んでいると思われた。チームメイトのスーパースター、レブロン・ジェームスらと共に戦い、素晴らしい経験になったであろう。

来シーズンもレイカースに残って欲しいが、契約のことは予測し難い。たとえどこのチームに行っても今年の経験を生かしてさらに活躍してくれることだろう。渡邊選手とともに必ず応援し続ける。世界最高峰のＮＢＡに日本人選手が所属しているだけで夢のようなのに活躍している姿を多く見ることができて心から感謝している。

彼らの活躍を知って、子供達の夢はより現実的なものとなっているだろうし、富永啓生選手をはじめ多くの若者が次の日本人ＮＢＡ選手になろうと海を渡って挑戦している。日本のバスケットボール界の進歩に大きく貢献していることは疑う余地がない。

追記

ここ数年、ＮＢＡの試合は見てないという方も多いと思いますが、契約していなくても見られることもありますし、ハイライトならどなたでも視聴可能です。

以上

訃　報

稲垣　安二　氏　　令和５年３月31日　　享年　９１

長年にわたり、振興会会員として、日本バスケットボール界発展のため多大なご尽力を賜りました。
ここに謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

事務局だより

［事務局］

◇ 「バスケットを楽しむための異次元の施策を要望」日本協会の個人登録は、60 万人前後で推移しています。個人登録している選手以外に、バスケットを楽しんでいる選手は、潜在的その 10 倍以上いるのではないか。平均寿命が延びると同時に選手としてバスケットボールを永く楽しむ人口が増加していることは事実。環境の整備が第一と考える。

◇ 「スポーツ界全体で早急にアーカイブ（記録の保管場所）の振興を」:「秩父宮記念スポーツ博物館・図書館」は、日本のスポーツアーカイブの中枢機関。スポーツに関するあらゆる資料が保存されている。「アーカイブ」は、将来につなげる貴重な財産。各競技団体などスポーツ界全体でアーカイブを振興する取り組みが必要と考える。

◇ 振興会会員の皆さんは、「斯界のレジェンド」です。是非ご自分のバスケットの歴史を継承するプログラム、関係資料などがありましたら事務局までご連絡ください。

◇ 会費納入のお願い

今年度も会費の納入をお願いいたします。
振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行	００１００－３－３１６０３５	
	ＮＰＯ法人日本バスケットボール振興会	
三菱ＵＦＪ銀行	神保町支店	普通預金口座　１６８４７４３
	特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会	
みずほ銀行	丸の内中央支店	普通預金口座　１００４６８７
	特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会	

以上

プラザ　こぼればなし

◇　国際バスケットボール連盟（ＦＩＢＡ）は、ワールドカップ 2023 地区予選（男子）の全日程が終了した２月 27 日に、地区予選の成績を反映して更新した世界ランクを発表し、日本は 38 位から 36 位に２ランクアップした。世界のトップ 12 は下記のとおりである。ワールドカップ本戦のグループ組合せが発表された。本文を参照されたい。

１位 スペイン	２位 アメリカ	３位 オーストラリア	４位 アルゼンチン
５位 フランス	６位 セルビア	７位 スロベニア	８位 リトアニア
９位 ギリシャ	10 位 イタリア	11 位 ドイツ	12 位 チェコ共和国

◇　来年は、2024 年オリンピック・パリ大会が開催される。オリンピックは出場チーム数 12 で、ワールドカップより遥かに厳しい。ＦＩＢＡでも、年明け２月には世界予選ラウンドが計画されるはずであり、本年内に開催が予定される世界予選ラウンドへの参加資格獲得の試合日程情報が待ち遠しい。パリへの出場には、ワールドカップの成果を含め、アジアのトップを勝ち取る必要がある。女子は今回のアジアカップで４強以内のパリ出場資格を獲得できた。男子もワールドカップでの期待は大きい。

◇　ＮＢＡで八村塁、渡邊雄太の両選手が活躍しているが、ベンチスタートで苦労しているようである。スタメンとなるポイントゲッターは３点シュートが 50％近くの確率で決まり、10 分ごとに５点をゲットする力が必要のようだ。途中出場しても５分以内に３点をゲットしてアピールできるポイントゲッターでなければスタメンに立てそうもない。世界トップクラスのＮＢＡでは、そう簡単にレギュラーを獲得することはできない。

◇　バスケットボール界では「ショットクロック」制度の採用、野球界では「ピッチクロック」制度の新規導入など、多くのスポーツで競技時間を短縮するためのルールが適用されている。その背景には、多くのスポーツが観客動員について工夫し、飽きがこない試合を行おうとしている所以がありそうだ。

◇　仙台明成高校男子バスケットボール部監督の佐藤久夫氏（73 才）が６月８日に亡くなられた。ＮＢＡの八村塁選手を育て、全国高校選手権３連覇を達成した名将。日本協会が構築した「エンデバー制度」の伝達役として全国の若手選手育成にも貢献した功績は大きい。ご冥福をお祈りする。

◇　永く日本代表ガードで活躍、アメリカ WNBAでもプレイした大神雄子氏（40 才）が、このほど、国際バスケットボール連盟（ＦＩＢＡ）より殿堂入りする旨、発表された。現役引退後、現在、Ｗリーグチーム、トヨタ自動車アンテロープス、のヘッドコーチを務めておられ、選手枠で殿堂入りした日本人は佐古賢一氏に次いで２人目となる。

以上

NPO法人
日本バスケットボール振興会
〒101―0051
東京都千代田区神田神保町1－40
豊明ビル 301号室
電話／FAX（03）3219－9311
メール contact@jbbs.jp

シニアバスケットボール交歓大会 in shirako・ベストプレー集


















本大会の上記以外の写真も、日本バスケットボール振興会ホームページ上の facebook でご覧いただけます。